

高校生へ 私が選んだ 1冊の本

「温暖化で日本の海に何が起るのか
水面下で変わりゆく海の生態系」

山本 智之：著
講談社

東京都
品川翔英高等学校 3年
馬場 晴之

「貴方は魚が好きか？」もしこんな質問をされたら貴方は何と答えるだろう？ 日本では古来より魚を食べる文化を持つ。ある研究では日本人は本能的に魚の味を知っているとされている。では、なぜこんな質問を提起したのか？ それは魚が当たり前のものではないことを実感して欲しいからだ。つまり、近い将来、私たちの食卓から魚の種類が急激に減ることだ。

筆者、山本智之氏は、根本的な原因は海洋酸性化だと述べている。海洋酸性化とはその名の通り二酸化炭素が海洋に溶け込むことを意味する。地球温暖化が進むにつれ増加した二酸化炭素が海水に溶け込み、海全体のpH濃度を下げる現象だ。これによって引き起こされる問題は計り知れない。人々がよく知るサンゴの白化現象もその一つだ。サンゴの白化とはサンゴが死んでいることを意味しているわけではない。サンゴ内部にある器官の悪化によって引き起こされるため、サンゴの悲鳴と呼称されている。私も以前、2回ほど沖縄を訪れたことがあるが、初めて潜った時には美ら海の雄大さと美しさに強い感動を受けた。しかしその1年後に訪れた際には、想像以上に白化したサンゴが散見され、たった1年で景色が変わってしまうことに強い衝撃と恐怖を感じた。

海洋酸性化によってもたらされた変化はサンゴの白化だけではない。南洋魚の生息範囲北上も海洋酸性化が起因している。そもそも、これらの種は亜熱帯に生息しているため寒さに弱い。南洋から暖流に流され潮目にたどり着いたとしても、冬が近づくと低水温に適応できなくなり死んでしまう。これらを死滅回遊魚と筆者は呼ぶ。だが近年、新たな研究で越冬個体が複数種確認されている。これは南洋魚の生息できる環境が変わりつつあることを意味している。北海道大学のある研究では、このまま酸性化が進んだ未来の寿司桶の中身の変化をシミュレーションしている。その結果、ネタの種類が半減することが分かった。この研究結果を知った時、私は危機感を抱いた。日本食を代表する寿司が今を生きる私たちの手で消え去ってしまうのではないかという焦りだ。

今現在の私たちにできることといえば、海洋酸性化の根源となるCO₂削減のため努力だ。車ではなくバスに乗り、エアコンの節電に努める、ビニール袋を使用するのではなくエコバッグを持ちプラスチック消費の削減へ協力するなどの他にも、生活の中には地球温暖化を抑制するために努力できる場所は沢山ある。しかし、私一人だけでは到底地球温暖化の進行を遅らせることはできない。そのためには、日本が、世界が、私一人となって協力して問題解決を試みる他ない。中でも私たちのような50年から100年後の未来を生きる若者が主体となって、この危機的状況を発信していく必要がある。

世間では、SDGsや環境問題として地球温暖化や海洋酸性化が度々注目を集めているが、一般人からは少しばかり距離を感じるかもしれない。現に近い将来、寿司ネタが半減することを知っている人は多くないだろう。私自身もこの本に出会うまではさほど意識して魚を食べていなかった。ましてや今の自分にできることなどたかが知れていると思っていた。それでも、地球温暖化という莫大な問題は人類一人一人の責任に変わりない。過去に起因があったとしても今現在この地球に生きる以上、自然や人その他万物、すべてをコントロールできるのは人間だけだ。現在、私は海洋環境に関心があり、海洋研究に力を注いでいる大学・学部を志望している。今回、海洋酸性化がもたらす私たちの生活環境への影響を強く実感した。それと同時に人々に、特に若い世代に訴えかけたいと強く思った。

破滅への一途を辿り始めている海洋酸性化は、地球を誠実かつより親身に読者に語りかけてくれる。山本氏は自身で現場に何度も赴き、その詳細を丁寧に伝えており、国内外での潜水は500回を超える。私もこの先、自分の足と五感を駆使し、探究心を忘れることなくいつまでもハングリーな姿勢で海洋研究を学び世界に発信していきたい。まずは周囲の人にそれぞれができることを訴えていくつもりだ。

通巻第94号
2023年9月25日 発行

© 編集・発行 英教出版株式会社

代表者 小田 良次

発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町 5
TEL. 03-3238-7777
<https://www.jikkyo.co.jp/>